

## 日銀の視点

水戸に着任して約1カ月の7月中旬のある晴れた休日、県内で訪問したい所が山ほどありましたが、コロナ禍の下、密を避けることを優先し、おむね那珂川沿いに河口近くの海門橋までサイクリングをしてきました。往復で30<sup>+</sup>余り、緑の中を風を切って自転車を走らせ、また、湊大橋や海門橋の上から海側・内陸側の素晴らしい景色を眺め、よい運動になるとともに心もリフレッシュできました。

日銀水戸事務所長

上野 淳

# 気候変動問題への対応

さまざまな活動ではありませんが、こつした気分を味わえたのも、暮らしやすい地球環境があつてこそです。環境を守り、次世代に引き継いでいく観点からは、国内外で気候変動問題への対応が加速し

気候変動問題と日銀といつとなかなか結び付かない方もいらっしゃるかもしれません。しかし、気候変動は中長期的に経済・物価・金融情勢に極めて大きな影響を及ぼし得ます。従って「物価の安定

具体的な取り組み内容としては、金融政策面では市場中立性に配慮しつつ、金融機関が自らの判断に基づき取り組み気候変動対応の投融资をバックファイナンスする新たな資金供給制度を導入することとしました。

揮を目指します。そのほか、調査研究面、国際金融面、業務運営面などでの取り組み方針を含め、関心のある方は、日本銀行ホームページに新たに設けた専用サイト（「気候変動」）を参照ください。

気候変動問題への対応は当然ながら茨城県の産業競争力にも大きな影響があり得ます。この点、県内では官民においてこれを大きなチャレンジであるとともにチャンスとも捉え、積極的な取り組みが行われていることは心強い限りです。こうした取り組みにも注目していきたいと考えています。（次回は9月11日掲載）

ているように思われます。日銀でも中央銀行の立場から、国際的な議論への参画などを積極的に行つてきましたが、7月16日には包括的な取り組み方針を取りまとめ、公表しました。

と金融システムの安定」を使命とする中央銀行の立場から、民間における気候変動への対応を支援していくことは、長い目でみたマクロ経済の安定に資するものと考えています。

金融システム面では、金融機関との間で、気候関連金融リスクへの対応状況や、取引先企業の脱炭素化に向けた取り組み支援などについて深度のある対話を行うていくことなどの取り組みを通じ、金融システムの安定確保と金融仲介機能の円滑な発